

2021年
海外トピックス
中国

中国駐在員報告

駐在員：浅原 敏治

経済

今春開業予定のららぽーと上海金橋を視察

浦東新区の自由貿易試験区（貿易や投資などの規制緩和を進める実験区）内に今春開業する商業施設「ららぽーと上海金橋」の建設現場を視察した。

同施設の敷地面積は約4万㎡、1階から6階まで約220店舗（物販、飲食、アミューズメント施設、映画館など）が入る。館内は中央通路の両側に店舗が並ぶシンプルな回遊導線が採用され、来館者が目的のお店を見つけやすい構造になっている。

徒歩7分の場所に地下鉄9号線台児庄路駅があるほか、近隣に高速道路の出入口もあり、交通アクセスに優れた立地となっている。東側には外資系企業のオフィスや研究開発施設、西側には高級住宅が立ち並んでいる。

周囲5km圏内の人口は85万人。平日は周辺住民やオフィスワーカー、休日はファミリー層をターゲットにし、幅広い楽しみ方を提供していくとのことである。また、建物前には、海外初となる実物大フリーダムガンダム立像が設置される予定で、こちらも上海市内で話題となっている。

ららぽーと上海金橋を案内する担当者から「上海での出店を考えている日本の方が気軽にテストマーケティングの場として使っていただける仕組みもご用意しています」との説明があった。この方は以前ららぽーと沼津にも携わっており、「静岡県からの出店も歓迎します」との言葉をいただいた。

12月の上海市内での新型コロナの市中での新規感染者数は0人と感染拡大が収まりつつある。週末には公園や商業施設が多くの人々で賑わっている。ららぽーと上海金橋の開業の際は、周辺がさらに活気に満ち溢れ、賑わう様子が目に浮かんでくる。

社会・時事

上海の日本料理店で静岡県PR

外灘の日本料理店「SUN With AQUA」では、1月と2月、昇龍道(日本の中部地方の観光ルート)フェアを開催しており、本県も店内にてポスターや動画を用いてPRを実施している。また、参加自治体にちなんだメニューを用意しており、静岡県は、衣に粉末茶葉を混ぜ合わせて揚げた天ぷらを提供し、好評いただいている。

このお店の通常営業における来客数は、渡航できない代わりに日本料理を堪能しに訪れる市民が多く、2020年は前年よりも増えたとのことである。当事務所は、今年も多くの皆様と協力して、本県の魅力を中国の皆様を紹介していく。

中国駐在員報告

駐在員：浅原 敏治

経済

デジタル人民元、始動へ＝世界初、年内にも

中国メディアは1月、デジタル人民元（人民元をデジタル化したもの）の導入の準備が最終段階を迎えていると報じた。昨秋には実際の利用を想定した大規模な実証実験がスタートし、世界初となるデジタル通貨が、今年中にも登場する見通しとのことである。クレジットカードには審査が、アリペイなどのQRコード決済には銀行口座の開設が必要であるのに対し、デジタル人民元は一定額までは国内外問わず誰でも利用が可能となる。

中国人民銀行（中央銀行）は2014年にデジタル人民元の研究に着手し、一部地域での限定的な試験を経て、昨年10月に広東省深セン市で5万人、12月には江蘇省蘇州市で10万人を対象に実証実験を行った。抽選で選ばれた市民はスマートフォンにデジタル人民元を入れるウォレット（財布）のアプリをダウンロードした上で、1人200元（約3,200円）分のお金を無償で受け取り、商店やレストランでの支払いに利用した。蘇州での実験では、インターネットに接続していない状態でデジタル人民元をやりとりするシステムも試された。スマートフォン同士を軽く接触させるだけでお金の受け渡しが終わり、通信状況に関係なく取引できることが確認された。こうしたオフラインでのやりとりはオンラインよりも高度なセキュリティが求められる。中国メディアは専門家の話として、ブロックチェーン（分散型台帳）と呼ばれる新技術などによって可能になったと説明し、デジタル人民元の実現に向けた「飛躍的な進歩」と評価した。

社会・時事

杭州蕭山国際空港駅の開業

昨年12月30日、杭州地下鉄の杭州蕭山国際空港駅が開業した。

これにより、空港から、高速鉄道が停車する杭州東駅までおよそ50分、空港から観光名所である西湖の最寄り駅までおよそ1時間で行くことができる。また空港と杭州東駅との間に2022年アジア大会のメイン会場の最寄り駅となるオリンピックスポーツセンター駅も開業した。

これまで杭州市中心部から空港へのアクセスは、車やバスに限られ、道路渋滞による到着の遅延が問題となっていたが、地下鉄の乗り入れで所要時間が計算でき、利便性が飛躍的に向上した。

中国駐在員報告

駐在員：浅原 敏治

社会・時事

上海市での春節連休の小売売上高、前年比 2.2 倍の 76.1 億元

中国ニュースサイトの中国新聞網は、上海市商務委員会がこのほど発表した市内主要小売企業 390 社の春節連休期間（11 日～17 日）中の売上高が前年比 2.2 倍の 76.1 億元（約 1,239 億円）であったと報じた。また、大型商業施設のほか、ユニクロやセフォラ（スキンケア化粧品）といった小売チェーン大手の売上高も前年比 2 倍以上の伸びを示し、昨年新型コロナウイルス感染症による消費の落ち込みからの大幅な回復が顕著となった。これは新型コロナウイルス感染症の発生前の一昨年の春節連休と比較しても 1.15 倍となっている。

上海市内の人出の状況としては、市内 48 の大型商業施設の来場者は、前年比 3.3 倍の 343.3 万人に達し、大手 47 社が運営する映画館では 520 万人と一昨年の 1.2 倍となった。一昨年との比較においても増加している理由として、今年の春節連休は、海外への渡航制限や市外への移動自粛で多くの市民が市内に留まり、旅行に充てる予定だった予算を市内での消費に振り向けられたことが要因と報じられている。

私も春節連休中に外灘などの観光地に行ったところ、人出が多く、特にお年寄りを観光案内している家族連れを良く見かけた。上海の知人によれば、省を跨ぐ移動をした場合、帰宅後に 2 週間の自宅待機をしなければならないが、それでも春節を家族と過ごしたいと考えるお年寄りが、上海に住む自分の子供に会いに来ているのだろう、とのことであった。中国人の家族の絆の強さが感じられた。

春節連休中、上海の観光地では警察官等による検温や健康コード確認がしっかりと行われていた。市中感染者はこの春節連休中は出ていない。

社会・時事

上海地下鉄 15 号線が開業

1 月 23 日、上海市の閔行区（びんこうく）から宝山区（ほうざんく）までを南北に結ぶ地下鉄 15 号線が開業した。この路線は、他の 9 路線への乗り換えが可能で、総延長は市内地下鉄では最長の約 43 キロメートル、29 駅を設けている。また、運転手がいらない完全自動運転で、車内にはスマートフォンの USB 充電ポートも備えられている。

同線の呉中路駅の構内は、柱が使われていないアーチ型に設計されており、中国の SNS で「最も美しい地下鉄駅」と評判になっている。

中国駐在員報告

駐在員：浅原 敏治

経 済

浙江省寧波市に阪急百貨店が間もなく開業

3月16日、間もなく開業を迎える浙江省寧波市の阪急百貨店を視察した。場所は、地下鉄1号線「海晏北路駅」がある交差点の角地で、周辺には市政府やオフィス、マンションが並ぶ。建物の延床面積は17万6千㎡。売り場面積は11万6,000㎡。地上6階、地下1階のフロア構成で、日本の通常の百貨店の倍の広さである。4階から6階の中央部は吹き抜けになっており、4階部分には主にイベントで活用される広場が設けられている。フロア構成は、1階は全てラグジュアリーブランドが展開され、2階は化粧品、3階から上は高級ブランド用品や婦人服などの売り場のほか、映画館、レストラン街なども設けられる。レストラン街にはお好み焼きや串カツなどの大阪名物が楽しめるお店も入る。

案内していただいた阪急百貨店の職員の方から「阪急百貨店のモットーは、モノではなくコト（情報）を提供することにある。催事での日本のPRで日本を好きになってもらい、リピーターになっていただけるよう取り組んでいきたい」との説明があった。寧波市に新たな日本の情報発信ができる施設が誕生することは頼もしい。

なぜ、阪急百貨店は寧波市を選んだのか、このことについても伺った。その理由は①市民所得が比較的高い②競合する店舗が少ない③陸海空いずれからの輸送ルートも整備されており、物流面が優れている、とのことであった。近隣の大都市である上海市や杭州市には既に多くの百貨店があることから、寧波市周辺の大都市である台州市、温州市からの顧客を獲得していきたいとのことである。

阪急百貨店はいよいよ2021年4月16日にオープンする。静岡県と友好提携を結ぶ浙江省内にあり、今後も発展が見込まれるこの新たな大型商業施設で、県産品を紹介するなど当事務所も積極的に活用していきたい。

社会・時事

美しく咲き誇る「富士之国櫻花林」

上海市青浦区の公園「東方緑舟」内の一角に、日本さくらの会と静岡県関係者が寄贈した2千本の桜が植えられ「富士之国櫻花林」と名付けられた場所がある。ここは郊外の混雑しない市民の憩いの場となっており、11年経った今年も美しい桜が咲き誇り、訪れた人々を楽しませている。コロナ禍で容易に日本と往来できない中、上海で日本を感じることができる場所のひとつである。

中国駐在員報告

駐在員：浅原 敏治

社会・時事

日本への留学を目指す青少年の学び舎 朝陽義塾日本国際高校

朝陽義塾日本国際高校は、2016年に上海で設立された生徒数約200人の全寮制の私立高校である。最初の2年間で日本語や日本の文化・礼儀作法などを学び、3年生になると日本の提携先の高校に留学し、そのまま日本の大学への進学を目指す。

4月にこの高校を視察した。学校は上海市中心部から南東に50kmほどの場所にあり、周囲は雑木林や畑に囲まれている。敷地には校舎、学生寮、集会所、食堂や体育館のほか、軽食店や畑や鶏舎があり、犬や猫、山羊も飼われている。

授業は1時限40分で、午前8時20分から夜8時まで10時限行われる。午前中は全て日本語や日本の文化に関する授業が行われる。EJU（日本の大学に入学を希望する外国人が受ける試験）対策の授業もある。

学生寮の外に洗濯物が干してある。食事以外の身の回りのことは学生自らが行っているとのこと。「中国では、身の回りのことを親にやってもらい、勉強ばかりしている学生が多い。身の回りのことができず、日本の文化、礼儀作法を身に着けずに留学することは、泳げないのに海に飛び込むようなものですから」。こう語る孫源源校長は、日本大学を卒業し、上海に戻って教員を務めた後、この高校を設立した。

2年前から教員として働く日本人の照屋慶子さんにもお話を伺った。図書館がなく、本は食堂に置いてあり、学生が自由に持ち出していることに驚き「本が無くなったらどうするのですか」と孫校長に聞いたところ「無くなれば補充すればいい。学生が本を持っていくことは悪いことではない。学生を信用し、自律行動を尊重しましょう。」と話されたという。

また、この学校の集会所には2本の木が床と天井を突き抜けて生えている。照屋さんが孫校長に2本の木を切らない理由を聞くと、「木がこの大きさになるまでに何年かかっているのか。それを人間の都合で切ることはない。」との回答があったことが印象深かったと話をしてくれた。

学校には校長室がなく、食堂も生徒と教員がいつも同じ物を食べて生活を共にしている。「教員と学生との距離も近く、皆さんがいつも笑顔で接してくれて楽しい。」と照屋さんはこの学校の雰囲気を笑顔で語った。

この高校は、日本の提携校を探している。関心のある高校があれば、静岡県中国駐在員事務所まで御連絡いただきたい。

中国駐在員報告

駐在員：浅原 敏治

社会・時事

上海市のワクチン接種状況

上海市では、外国人を含め、市民への新型コロナウイルスのワクチン接種が順調に行われている。5月17日現在、全市民の半数である約1200万人が接種を受け、うち990万人が2回の接種を済ませている。

当初は、医療従事者や交通関係者などを中心に行われていたワクチン接種であったが、2月下旬からは対象者を18歳から59歳までの市民に広げ、3月下旬からは対象を65歳まで、5月中旬からは75歳まで拡大された。接種は若い世代から始められ、接種の市民への影響を見ながら対象年齢を引き上げ、進められている。

外国人も3月下旬から毎週月曜日と土曜日に指定病院で受けられるようになった。私も4月下旬にスマートフォンで予約し、5月10日に1回目の接種を受けた。1回目接種の当日、会場で承諾書へのサインや問診票への記入、接種料100元（約1,700円）の支払いを済ませ、看護師による接種を受けた。看護師から24時間以内の入浴と飲酒は控えるよう説明があった後、病院内の待合室で30分間休憩し、1回目の接種にかかる全ての作業が終わった。所要時間は約50分。スタッフの案内も分かりやすかった。

2回目の接種は、病院の指示を受け、3週間後の5月31日に接種した。これまで体調の異変は起きていない。

このようにワクチン接種が進んではいるものの、上海市内の地下鉄やバス、公共施設内でのマスク着用は続いており、新型コロナウイルス感染防止に向けた市民のまだまだ慎重な姿勢が感じられる。

経済

JNTO上海のPR動画で本県の魅力を配信

JNTO（日本政府観光局）上海事務所では、渡航制限などで訪日外国人旅行者数が大きく落ち込んでいる中でも、日本の魅力を継続して発信し、関心を高めて将来の訪日につなげようと、4月から所員が手作りで日本各地のPR動画を作成し、配信している。

6月から本県の魅力紹介と渡航再開後の来訪をお願いする私のメッセージが盛り込まれた動画が配信されている。

当事務所は、これからも関係機関と連携して本県へのインバウンド誘客を図るよう取り組んでいく。

【動画のQRコード】



中国駐在員報告

駐在員：浅原 敏治

経済

浙江省政府主催の輸入商談会への出展

6月9日から11日まで、浙江省政府主催による「浙江省貿易商談会」が寧波市で開催された。この商談会は毎年開催されており、本年度は主に「中東欧諸国展」、「国際消費財（中国からの輸出品）展」、「輸入商品（中国への輸入品）展」の3つの展示会で構成され、約3,000のブースに2,041人の出展者と7,468社のバイヤーが参加した。このうち輸入商品展は、浙江国際輸入商品・海淘匯（ハイタオフイ）という名称が付けられた。海淘は“海外の商品を購入すること”、匯は“集める”という意味である。

海淘匯にはフィンランド、アイスランド、韓国、ドイツのシュレスヴィヒ・ホルシュタイン州、ベルギーの西フランドース州等、世界各国から出展があり、日本からは本県のほか、JETRO、福井県が参加した。

当事務所では、中国でも人気があるアニメちびまる子ちゃんがデザインされた幼児用食器のセットや、静岡市内の企業が製造し、中国に輸出販売されている富士山のミネラルウォーターを展示し、足を止めた来場者に紹介した。この他、本県と福井県の関連企業も独自のブースを設けて出展した。本県関連では、清水町のスポーツ用具メーカーである株式会社ドリブルジャパンが製造するフットサルシューズの展示や本県と浙江省に工場がある不二家や日清食品等が出展し、商品PRを行った。

今回、主催者が力を入れていた「中東欧諸国展」では、中東欧各国が、自国の産物（食品や工芸品等の生活用品）を展示していた。ひときわ賑わっていたのはチェコのブースで、国の観光地の写真パネルや、洋酒やガラス工芸品、スキンケア化粧品を百貨店売り場のように贅沢に空間を使った高級感ある展示をし、渡航できない中、チェコの雰囲気を楽しめるよう工夫されていた。

また、この商談会的主催者に向けて習近平国家主席から祝賀メッセージが寄せられ、一带一路周辺国との連携強化を望む姿勢が改めて示された。

来年で40周年を迎える友好提携先の浙江省からの招待による出展で、本県をPRする貴重な機会となった。

中国駐在員報告

駐在員：浅原 敏治

経済

中国のお酒文化に変化あり～低アルコール飲料が人気～

中国でEC（電子商取引）トップの企業であるアリババグループが作成した「2020 果実酒イノベーション動向レポート」において、2020年1月から11月まで梅酒や果実酒などの低アルコール飲料が中国のアルコール市場の成長をもたらしたと発表した。主力消費者は「18歳から34歳までの女性、特に大都市に住むホワイトカラーとZ世代（1995年以降に生まれた世代）」だという。別のEC大手「網易厳選」も今年3月、同社サイトで女性の2020年のアルコール飲料購入額が前年から2000万元（約3億4000万円）以上増加したと公表した。アリババのECサイト「Tmall（天猫）」が今年6月に開催したビッグセールでは、果実酒の流通総額が前年比で100%、梅酒は同200%増加しており、その勢いは2021年に入ってさらに加速しているようだ。同セール期間での低アルコール部門売り上げランキングのトップ3は中国産果実酒の「RIO（鋭澳）」と「Miss Berry」、中国産梅酒の「梅見」であり、7位にはサントリーの「ほろよい」が入った。

中国のお酒文化というと、以前はアルコール度数が50%以上の白酒（穀物を原料とした中国発祥の蒸留酒、パイチュウ）、もしくはワイン、ビールの3択というイメージがあるが、近年、気軽に飲める低アルコール飲料で“ほろ酔い気分”を楽しむ傾向にあるようだ。

私が中国に赴任が決まった際に、何人かの方から「中国では伝統的に接待や宴会の席でアルコール度数が60度近い茅台（マオタイ）酒や50度の白酒を何度も一気に飲みすぎる習慣がある。その場の全員が酔いつぶれるまで飲むということも多い」という話を聞いていた。日本人を含め中国出張する外国人が気をつけるべき習慣で、正直不安もあったが、昨年秋の赴任以降、このような場面に遭遇していない。コロナ禍で集団での飲食から家飲みとなっていること、また、健康志向の高まりもお酒文化の変化をもたらした要因と思われる。

社会・時事

中国本土に台風6号が上陸

7月26日未明に台風6号が浙江省嘉興市に上陸した。同市の隣の上海市も24日夜から風雨が強まり、25日には上海市内のスポーツ施設が休業し、上海発着の航空路線や新幹線の一部が運休するなどの影響が見られた。26日には上海市政府の呼びかけにより多くの企業が在宅勤務や臨時休業の対応をとった。今回の台風は、移動速度が時速15キロと遅く、50時間以上も風雨が強い状態が長く続いた。上海市内では幸いにも被害はなかった。

中国駐在員報告

駐在員：浅原 敏治

経済

中国で広がる「お一人様経済」～単身者1億人の規模へ～

中国国営中央テレビ（CCTV）系のビジネスチャンネルは、中国の独身者数が2018年時点で2億4千万人と全人口の約16.7%を占め、このうち7,700万人が1人暮らしをしており、2021年には1億人に近づくと報じた。

中国社会科学院の社会学研究所は、「最近の独身者は消費体験を重視している。ブランドをやみくもに追及するのではなく、コストパフォーマンスが高く個性的な商品を購入する傾向がある」と分析した。同所の別の調査では、「自身が楽しむために消費をする」と答えた人の割合が世帯を持つ人で27%、独身者で42%と独身者の方が大きく上回った。

また、中国の青年層を対象に実施した消費に関する調査によると、単身者の多い18歳～25歳の青年層の34%が今年消費を増やす分野を「旅行」と答えた。新型コロナウイルス感染症によって抑え込まれた旅行需要が、コロナ収束後は一気に放出されるのではないかと分析されている。2位は「保健・健康維持」の33.3%で、このうち男性は安全な食品の購入、ワクチン接種、除菌・防疫で健康を維持すると考え、女性は運動や健康診断、規則正しい生活で健康を保つと考えていた。

こうした1人暮らしをする独身者の需要「お一人様経済」を捉えようと、企業も様々な動きを見せている。飲食業界では、周りを気にせず1人で食事が楽しめる席を用意し、1人分のメニューを提供している。また、単身生活者に合わせた小型の炊飯器、冷蔵庫、掃除機などの家電の需要も高まっている。

中国民政部の統計データによると、中国の婚姻件数は2013年以降減少傾向で推移し、2020年の全国婚姻件数は813万1千組で、前年比12.2%減少だった。こうした婚姻件数の減少から、独身者の数は今後も増えると予想され、「お一人様経済」の伸びは続きそうだと中国のメディアは報じている。

経済

寧波舟山港の一部が新型コロナウイルスで閉鎖

8月11日、浙江省寧波市の寧波舟山港で新型コロナウイルス感染者1名が確認され、寧波港の美東コンテナターミナルが閉鎖された。鈴与物流有限公司の名合尚之副総経理に確認したところ、このコンテナターミナルは寧波舟山港の貨物の25%を取り扱っており、日中航路は寧波港の別のコンテナターミナルにシフトして運航を続けたとのことである。中国メディアは、8月20日時点で60隻以上の船が入港待ちで列をなし、これは過去3年の中で最多であったと報じた。美東コンテナターミナルがある梅山島ではその後、大規模なPCR検査が4回行われ、いずれも全て陰性だったことから、8月25日に同ターミナルの閉鎖は解除された。

新型コロナウイルスのパンデミックに端を発した世界的なコンテナ不足や、今回の閉鎖などによる海運の混乱で苦境が続く中、港湾関係者は懸命にサプライチェーンを維持するよう業務を行っている。

中国駐在員報告

駐在員：浅原 敏治

社会・時事

車のまま手軽に出店できる上海のフリーマーケット

9月20日、秋晴れの下、上海市の商業施設の屋外広場でフリーマーケットが開催された。出店者が車のまま会場に入り、ハッチバックドア内や周辺で商品（アクセサリ、花、骨董品、おもちゃなど）を販売した。中には捨て犬の新しい飼い主を探す出店者もいた。出店者数は40ほどで、取材した13時頃には100人ほどの来場者で賑わっていた。

主催者である日系のイベント会社総経理の野口寛明さんにお話を伺った。3年前から始め、月1回程度の開催で出店者はSNSで募集しているとのこと。車のまま会場に入り、そのまま販売でき、準備と撤収が容易で出店者には好評とのことである。日本でよく見る総菜や野菜などを販売する者はいなかった。これらの販売には上海市衛生当局への申請が必要で、敬遠されがちであるとのことであった。

上海市では、9月に新型コロナウイルスの市中感染は発生していないが、大勢の人が集まるイベントは行われていない。こうした中、今回のフリーマーケットのような小規模イベントは人気があり、出店を希望する人も多く、また、集客効果があることから商業施設からも歓迎されているとのことであった。

この日、会場には小型のステージトレーラーも用意され、アマチュアバンドなど数組が演奏していた。野口さんと私も自前のギターを持参して日本や中国の歌を披露した。反響はまずまずだった。

経済

中国の電力不足と静岡県企業への影響

9月中旬から中国各地で電力需給の逼迫を理由に停電や供給制限が相次ぎ、電力不足が深刻化している。中国では石炭火力発電所による電力供給が主流であり、2030年までに二酸化炭素の排出量を減少に転じさせる目標を掲げている。電力不足となった原因について、ある中国メディアは、石炭価格が昨年の3割以上上昇し、発電コストが電力価格を上回ったためと報じ、また別のメディアは、今年上半期の排出量が前年に比べ大幅に増加し、目標達成が危ぶまれる省が電力使用制限に乗り出したため、と報じている。

影響について静岡県企業に確認したところ、江蘇省泰州市の工場では電力使用量を通常の75%程度に減らして操業し、蘇州市工業園區は停電のため、9月27日午後から操業停止となっている。湖南省株洲市の工場は国慶節休暇を10月1日～10月7日から、9月26日～10月4日に変更して対応している。また、浙江省でも電力消費量が多い企業に節電が指示され、一部の工場で電力使用量を減らして操業している。

9月29日、中国政府は、各地方当局に対して発電・熱供給企業への石炭供給を安定させるよう指示した。電力不足は解消される見込みであるが、太陽光や風力などの脱炭素へのエネルギー政策の転換もより加速すると見られる。

中国駐在員報告

駐在員：浅原 敏治

社会・時事

小説「伊豆の踊子」を通じ、静岡県魅力をPR

10月24日、上海市内の書店で、「伊豆・静岡魅力発信セミナー」と題し、川端康成の名作「伊豆の踊子」を通じて静岡県の魅力をPRするイベントが開催され、当事務所も参加・協力し、本県を紹介した。

同イベントでは、日本文化研究で著名な復旦大学日本研究センターの徐静波（じょ・せい）教授が、作品の舞台となった伊豆半島の修善寺や天城峠、下田港などを写真や小説の文章を交えながら、分かりやすく紹介した。このほか、同教授は、谷崎潤一郎が熱海市に別荘を構えた話や同教授が中国語に翻訳した小説「魔都」の作者で静岡県出身の村松梢風を紹介するなど、小説や作家をテーマにして静岡県の魅力を数多く紹介し、当日集まった47人の参加者が聞き入った。

この企画は、徐教授の提案によるものである。「伊豆の踊子」は、山口百恵が出演した映画がかつて中国でも大ヒットし、1960年代より前に生まれた世代にはとても有名な小説である。また、今年2月に中国で大ヒットした映画「唐人街探索3」に出演した三浦友和氏は、映画「伊豆の踊子」の主人公を演じていて、このことも中国で話題となり、「伊豆の踊子」が中国人にとっても身近な作品であることが伺えた。徐教授は、同作品がとても読みやすいことから、日本語を学ぶ学生に勧めているそうだ。

徐教授は、文学作品のほか、日本食、特に日本酒にも精通されている。「静岡県には美味しい料理と地酒が豊富にある。静岡県産の地酒は上海市内でも販売されていて入手できるから、次回は、静岡県の食と酒をテーマにしたイベントをやりませんか」と、イベント後に同教授から御提案をいただいた。コロナ禍で日本に渡航できない中、日本料理を楽しむ上海市民も多いと聞く。これまで当事務所は、今回の文学作品をはじめ、食やミニ四駆など、中国にある静岡県と関連のある身近な「モノ」を活用して、本県の魅力の紹介と知名度向上に取り組んできた。徐教授からの御提案は、当事務所にとってもありがたいことから、実施に向けて検討していきたい。

社会・時事

北京、コロナ感染予防策として結婚披露宴を禁止

北京市政府は10月29日、新型コロナウイルスの感染予防策として、市中心部の東城区及び西城区のホテルで同日から結婚披露宴を開くことを禁じると発表した。他の区のホテルも披露宴の予約を一時停止し、予約済の披露宴は厳格な感染予防措置の下で実施される。

中国は来年2月に北京冬季五輪を控え、感染対策を強化しており、「ゼロコロナ」実現に向け、警戒を強めている。北京市は「婚礼なども開かないことを原則とする」と強調。中国では昨年、湖北省武漢市などで感染が広がった際も冠婚葬祭を規制した。

中国駐在員報告

駐在員：浅原 敏治

経済

第4回中国国際輸入博覧会に静岡県産品を出展

11月5日（金）から10日（水）までの6日間、第4回中国国際輸入博覧会が上海市の国家会展中心で開催された。127の国と地域から約2,900の企業が参加し、来場者数は約48万人であった。

開催にあたり、強固な“ゼロコロナ”対策が行われた。まず、出展スタッフも含め、来場者は入場前48時間以内にPCR検査をし、陰性証明を提示することが必須となった。また、1人でも感染者がいる都市（北京市や浙江省杭州市など）の居住者や入場日前の3週間以内に同地域を訪問した者は入場不可となった。上海市内でも10月30日に上海ディズニーランド園内で1人の感染が確認されたため、10月30日、31日に同園を訪れた者も入場不可となった。

こうして行われた輸入博に、静岡県からは、お茶風味の菓子、調味料、みかんジュースなど中国輸出を狙う10社16種類の商品のほか、本県産の日本酒などが出展された。今回の輸入博の出展の傾向として、全体的に酒類の展示が特に多かったことから、酒以外の商品を展示した本県のブースは逆に注目され、試飲、試食する方が他のブースよりも多く見られた。11月6日と7日には中国で人気のドキュメンタリーディレクター竹内亮氏によるライブコマースも行われ、本県の商品を紹介した時間帯には2日間合わせて18万人が視聴し、おいしそう、値段が高そう、などのコメントが寄せられるなど多くの反響をいただいた。

また、商品の詳細な説明を聞くための日本の出展者とオンラインでつなぐタブレット端末が各展示ブースの横に1台ずつ設置された。昨年は一か所に数台がまとめて設置されたが、今年は、展示ブースごとに1台ずつタブレット端末が設置されたことで、来場者が日本の企業とスムーズにオンラインで話をすることができた。

来場者からは、日本の商品は品質がよく、安心して食べることができる、という声を多くいただいた。輸入博後も静岡県から商談業務を受託した現地企業が本県の商品に関心を示した商社等にアプローチをし、11月末までに13件の面談を実施、うち2件は具体的な商談が進んでいる。上海をはじめ中国市場に今回の県産品の販路が広がるよう、当事務所もサポートしていく。

社会・時事

上海日本商工クラブテニス大会に出場

11月20日（土）、上海日本商工クラブテニス大会に知人とペアを組み、出場した。主催者の上海日本商工クラブは、上海の日本人社会をサポートする目的で1982年に設立された会員数約2,400(団体・個人)の日系の商工会組織である。会員同士の交流を目的としたこのテニス大会は今回で43回目となり、初級、中級、上級のレベル別に分かれ、総勢188人の選手が試合に臨んだ。

中国では、テニスは日本ほど盛んに行われていない印象であるが、日本人の多い上海市内には10以上のテニスサークルがあり、多くの日本人が老若男女を問わず週末にテニスを楽しみ、一緒に楽しむ中国の方も徐々に増えてきている。

私のペアは予選2試合に挑み、残念ながらいずれも敗退した。来年の春、大会に向けてまた頑張りたい。